

NRC、エネルギー開発により誘発される地震性活動の可能性に関する検証結果を発表（6月15日）

米国学術研究会議（National Research Council : NRC）は、シェールガス回収、炭素の捕捉・貯蔵、地熱発電、そして従来型の石油・ガス開発などのエネルギー開発関連技術が地震を誘発する可能性に関する検証結果をまとめた報告書「エネルギー技術と地震誘発の可能性（Induced Seismicity Potential in Energy Technologies）」を発表した。

これまでこれらの技術を利用したエネルギー開発によって誘発されたと考えられる地震性事象が人命の損失や甚大な被害につながったことはないものの、特に砂と化学物質を含んだ大量の水を高圧で岩層に注入する水圧破砕法を用いた天然ガス掘削を中心として、エネルギー開発が進められている地域の住民の間で地震に対する不安が高まっている。

今回発表された報告書では、地中に還元される水量と、抽出される水量の総合バランスが崩れることにより地震が誘発される可能性が高まると分析されており、水圧破砕法そのものが有感地震を誘発する可能性は低いものの、ガス採掘に利用した使用済みの水が地中に注入廃棄されることで地震性活動が引き起こされるリスクが増大すると結論付けている。

また本報告書を作成した委員会は、本件に関する継続的な調査が必要であるともしている。

なお、本報告書は

<[http://www.nap.edu/openbook.php?record\\_id=13355&page=R1](http://www.nap.edu/openbook.php?record_id=13355&page=R1)>から閲覧可能。

National Academies, Hydraulic Fracturing Poses Low Risk for Causing Earthquakes, But Risks Higher for Wastewater Injection Wells

<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=13355>